第二十四回　交野市・交野市星友クラブ俳句大会　入選句

【市長賞】

二十九　和太鼓の音のしめりや梅雨に入る

【会長賞】

五十四　古扇我が家の歴史語りをり

【選者賞】

五十五　賀茂川の飛び石伝ふ初夏の風

【特　選】

十九　笑み交わす日焼少女の歯の真白

四十八　朝日浴び産毛の光るトマトかな

【入　選】

十五　金泉に湯床が見えず雲の峰

二十八　孫を乗せペダルも軽き若葉風

三十九　手話の手のはずむ会話や春隣

四十二　鳥の来て熟れ時を知るさくらんぼ

六十八　更衣写真整理もはかどらず

―選者紹介―

姓　山田

号　天（たかし）

略歴　平成十一年「雨月」入会
平成十六年「ホトトギス」入会
平成二十三年「ホトトギス」同人
令和三年五月「凧（いかのぼり）俳句会」創刊会長

著書　「季語を味わう」　句集「滝がしら」

【選　評】

今年度（令和三年度）は六十八句の投句がありました。コロナ禍で吟行に出歩くことがままならない状況にもかかわらず、昨年に比べ句作力の向上がみられるのがうれしい。ただ、今年も無季の句が四句あったのは残念。投句前に再度見直していただいて、季語は生きているか、五七五のリズムは整っているかなど、ご確認いただきたいと思います。

上田五千石氏は、俳句は「いま・ここ・われ」といいます。一句の中に、「われ」の存在を感じることができるか、眼前のものが詠まれているか、そして、今この時が詠みこまれているかが大切です。そのような句は読む人に作者の感動が伝わります。